

北海道大学教授・学生によるボツワナ訪問及び北海道大学・当地大学関係者との懇談

令和6年10月15日
在ボツワナ日本国大使館

10月10日、大森摂生駐ボツワナ大使は、国際シンポジウム開催のため当地訪問中の北海道大学大学院獣医学研究院及び工学研究院の教授・学生、同シンポジウム参加の当地大学・隣国大学関係者等を迎えてレセプションを開催し、大学間の共同研究や人材育成にかかる意見交換を行いました。

同シンポジウムは、持続的な鉱物資源開発及び汚染のモニタリングに向けた地球規模のケミカルハザード（化学物質の危険性）に関する国際会議で、10月8日～9日の2日間、ボツワナ大学のカンファレンスセンターにて行われました。ボツワナ大学、ボツワナ国際科学技術大学（BIUST）、ボツワナ農業天然資源大学（BUAN）、ボツワナ地質科学研究所（BGI）の教授・研究員、大学生のほか、ザンビア大学、ナミビア大学、ジンバブエ大学の教授・研究員等も参加し、北海道大学関係者を合わせると、70名以上が同シンポジウム参加のためにボツワナ大学に集まりました。

北海道大学は、JICA 開発大学院連携事業として、「One Health フロンティア卓越大学院プログラム」（One Healthにかかわる学際的・実践的な教育研究）を行っており、また、来年4月からは、JICA 技術協力プロジェクト「重金属汚染に対するモニタリングシステムと人的能力の強化を通じた持続可能な鉱物開発の確立」（2025年4月～2029年3月予定）の国内協力機関として、プロジェクト対象国（ボツワナ、ザンビア、ナミビア及びジンバブエ）とともに、国際共同プロジェクトを行う予定です。

今後、同プロジェクトを通じて、北海道大学とボツワナを含む4か国の実施機関による地球規模のケミカルハザードに関する共同研究が行われることで、学術研究の更なる発展に寄与するとともに、研究成果の社会展開が進むことが期待されます。



大森大使によるシンポジウム開会式挨拶



教授・研究者によるシンポジウムでの発表の様子